

実態調査事例⑨20年前の金属屋根について

あまり知られていない屋根の実態に迫ります。

20年前の金属屋根について、具体的な写真をもとに報告します。



↑上写真は、20年前に設置された金属屋根(心木あり瓦棒葺)(下屋・西面)です。場所は愛知県です。一見した感じでは、とくに問題ないように見えます。建物を解体するとのことで、金属屋根がどのようなになっているか調べました。



←左写真のように、よく見ると表面は塗装が剥がれ、所々、錆びが発生しています。屋根に上った感じでは、野地はしっかりしていました。



→右写真は軒先です。心木のキャップを剥がした所です。心木を留め付けしている釘の部分が、黒く変色していました。この部分では、とくに軒先側がひどく変色していました。



←左写真は心木に雨水浸入の染みが見られました。軒先部には染みが無いため、キャップと溝板の間から吸い上がっていることがわかります。

やまほん

余レポート No.34

余 株式会社 神清



→右写真は溝板を剥がした所です。軒先水切りの端部から白錆と赤錆が発生していました。溝板の裏面もエッジと接触していた部分に沿って、赤錆が見られました。



←左写真は心木を留め付けている釘です。釘頭が錆びています。また、その釘廻りの心木だけに染みが発生しています。つまり、この釘を錆させた水分源は、雨水ではなく結露水であることが分かります。



→右写真は心木を撤去した状態です。軒先部の釘はひどく錆びています。中には腐食して切れているものもありました。(釘は鉄製)
心木・野地全体としては腐朽はしていませんでした。(釘廻り部を除いて)

金属屋根・築20年では、釘廻り部の腐食腐朽が確認できました。また、下屋・西面の倉庫屋根といった、住まいの湿気の影響が及ばない部分においても、放射冷却、釘部の熱橋などにより劣化することがわかりました。

